

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年12月26日更新

事務事業名	マンホール改良事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連	
総合計画	政策	2 緑豊かな環境と共生するまちづくり	所属部	水道局	課長名	水野 孝春
体系	施策	10 水環境の保全	所属課	上下水道課	担当者名	本間 有里子
	基本事業	30 水質の浄化	所属班	管理工務班	(内線)	1156
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	下水	1	1	3	10234	下水道法
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 24年度で終了 <input type="checkbox"/> 24年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 下水道用のマンホールについて、老朽化による劣化や旧型マンホール(コンクリート受枠)であるためのガタつき等により、道路面の振動、段差及び陥没を引き起こし、亀裂等による管渠への不明水の浸入原因となっているため、マンホール蓋及び受枠等を取り替えもしくは、管理上支障のない範囲で道路路面のマンホール蓋部を埋設することにより、改善・改良する事業である。 下水道事業の着手から古い箇所が30年以上、民間開発による住宅造成により布設されたマンホールはさらに古いものもあり、合併前から徐々に改良を必要とする箇所が増えてきている。 旧型マンホールは、蓋がマンホール本体の斜壁部にボルト固定されておらず、ガタツキが発生しやすく、市民から振動や段差による苦情が多く、通行の安全を確保するため、緊急に改良を実施する場合もある。 市又は県の道路改良工事や舗装打ち換え工事に合わせて改良を進めている。平成25年度から市道改良工事の場合は建設課で施工。
【業務の流れ】	<p>①マンホール改良必要箇所の確認、②現地調査、施工方法の検討、③測量設計、④実施設計書の作成、⑤工事請負契約事務、⑥改良工事、⑦竣工検査、⑧支払い事務</p> <p>※必要に応じ、関係機関や関係部署(道路管理者や警察署)との協議、道路工事施工承認申請事務を行なう。 ※現場によっては、マンホール蓋及び受け枠に、緩衝材を張り、応急的な処置で改善する場合もある。</p>
【主な予算費目】	工事請負費、委託料(必要に応じ)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地の住民から、振動やガタツキ等があるので、早期にマンホールの改善を進めてほしいという要望がある。 事業仕分けにおいて、排水設備事業の予算に計上していた原材料費(マンホール蓋、受枠代)を本事業に計上すべきという指摘があった。(平成25年度予算から移行)

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)	25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した下水道マンホール蓋及び受枠の改良工事 市、県道の道路改良に合わせた旧型マンホールの改良工事 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した下水道マンホール蓋及び受枠の改良工事 県道の道路改良に合わせた旧型マンホールの改良工事 	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 下水道用マンホール箇所数	箇所	事業仕分けにおいて、排水設備事業の予算に計上していた原材料費(マンホール蓋、受枠代)を本事業に計上すべきという指摘があった。(平成25年度予算から移行)
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
下水道用マンホール蓋、受枠	個	→ ア: 改良が必要なマンホール箇所数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
支障なく安全な状態に保全される。	%	→ ア: マンホール改良が実施できた割合
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
マンホール改良が実施できた割合をみることで、下水道用マンホール蓋、受枠が支障なく安全な状態に保たれているかどうかを判断できると考えた。		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込	
①活動指標	ア	箇所	10,455	10,525	10,600	10,592	10,670	10,740	10,810	10,880	
	イ										
②対象指標	ア	個	48	102	70	185	70	70	70	70	
	イ										
③成果指標	ア	%	100	100	100	100	100	100	100	100	
	イ										
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	3,164			10,032	11,226	11,226	11,226	11,226
		繰入金	千円		7,713	6,000					
		一般財源	千円								
	(A)事業費計	千円	3,164	7,713	6,000	10,032	11,226	11,226	11,226	11,226	
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	8	8	6	8	6	6	6	6
	延べ業務時間	時間	1,360	1,150	1,000	1,380	1,000	1,000	1,000	1,000	
	(B)人件費計	千円	5,603	4,643	4,038	5,617	4,038	4,038	4,038	4,038	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	8,767	12,356	10,038	15,649	15,264	15,264	15,264	15,264	

事務事業名	マンホール改良事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	-----------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は24年度の後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 県道及び市道の舗装打ち換え等に合わせて効率的にマンホール改良を実施するため、当初予定の箇所を上回り、補正予算を組んで対応したことにより、成果を達成することができた。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 ・マンホール改良が必要な箇所を一つひとつ取り組むことにより、改善を進めており目標達成の見込みはある。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ・老朽化したマンホール及び旧型マンホールは、相当箇所数が未改良であり、支障なく安全な状態に保全するためには全て実施する必要があり、成果の向上余地はある。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ・緊急を要するマンホール改良箇所は、下水道事業での単独施工となり他に手段はないが、市道や県道の道路改良や舗装打ち換え事業と連携して進めることにより、安全かつ経費的に有利に事業を進める。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ・マンホール蓋の設置後、相当の年数が経過しており、改良を必要とするマンホールは今後も増加するものと予測され、事業費の削減余地はない。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ・本事業を専門で行なう職員はおらず、他の業務との兼任で実施するものであり、これ以上の削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ・下水道施設の維持管理として必要な事業であり、費用は使用者からの下水道使用料でまかなわれており、適正である。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ・専門的な技術を要し、行政が行なわなければ責任の所在が不明確となるため、住民や地域・団体へ移行することはできない。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

<p>上水道工事や市道(建設課)の道路改良工事に合わせて、効率的に旧型マンホールの改良が実施できた。</p>
--

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p> <p>マンホール改良時に支給する蓋及び受枠の購入について、別の事業(排水設備事業)に予算計上していたが、次年度から本事業の予算に計上しより効果的な執行を図る。</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p> <p>老朽化したマンホール及び旧型マンホールは、相当箇所数が未改良であり、支障なく安全な状態に保全するためには全て実施する必要があるが、道路の改良や舗装と一体的に取り組むことで一層効果があるため、関係部署等と連携して進めるものとする。</p>																						